



## エイジャックスでのレース風景



モホークの屋内観戦エリアは  
ヒラ開催だとなかなか快適



全く人がいないフランボロの屋外観戦エリア

# 世界旅打ち気分

## ●第49回・カナダの競馬場3場

須田鷹雄

写真のカラー版は  
<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>  
#グリーンファーム会報#2022年11月号  
でご覧いただけます

バインで行われていたハーネスのコースは無くなり、ハーネスのコースは芝「ース」となった。こちらの施設も1000台以上の人ロットマシンを擁するカジノがあるわけでもないナイター開催も途中から大雨だったのとしては競馬エリアもかなり広筆者が行った日は特に大レーベーがあるわけでもないナイター開催も途中から大雨だったの入場者は少なかつた(カジノのうはそこそこ入っている)が、大入場者の少なさには驚かされた。スのときには賑わっていそう他の競馬場と同様に競馬客の齡化はかなり進んでおり、またカジノで遊ぶほどの金がないから馬券をちまちま買っている」とつ感じの客も田立つ。こちらで競馬の将来に不安を覚えないともなかつたが、施設が立派なんだけ救われた。

先日、久々に北米に行ってきた。いうか、筆者はカナダに行つたことがなかつたので前半ははじめてカナダに行き、後半はアメリカに移つて日本からバンクーバーに入り、行機で少しずつ東に飛んで最後ニューヨークという旅程だったのが、今回はその中からカナダの場を紹介する。

うち2場はトロント近郊にあるネースレース(繫駕速歩競走)の馬場だ。ウイーベグから飛んで昼過ぎにトロントに着いたのだが、その夜に比較的近い競馬場でともに開催がある。これは持ちで両方行かねばならん、とことどまでは第1レースの発時刻が早いほうに向かつた。

その競馬場は、フランボロダウス競馬場。着いてみると、明らかに入口だということころがここが入ると完全にカジノ。カジノ併設場だということは分かつたが、競馬の匂いが全くしな

施設の趣旨が完全にカジノになつており、競馬はほんの添え物程度。かつてのフロリダのように競馬をやつている」とがカジノ免許の条件なのかもしれないが、だとしたら「カジノ単体でOK」となつた瞬間競馬は廃止されてしまうだろう(フロリダ州のポンパノパークはそれで廃止になった)。なんとも先行き不安になる競馬場だった。

1日の前半はそのフランボローで過ごし、急いで車でもうひとつの競馬場へ向かった。グーグルマップの表示では30分とのことだったのだが、グーグルさんはずっと最高速度で走る前提のタイム出しをしてくるので、実際の所要時間は45分ほど。車の前にスカンクが飛び出してくるような田舎道を走った末に、今度はかなり立派な施設が見えてきた。ウッドバイン・モホーク競馬場である。

この競馬場は、有名なウッドバイン競馬場とは別。もともとは單なるモホーク競馬場で、1963年開場。2017年にちらりの競馬場に大規模な投資が行われ、ウッドバイン・モホーク競馬場という名前になつた。と同時に、有名なウッ

アを行つたり来たりする必要がある。最後に、紹介するのは、同じトロント郊外でも東側、空港からだと一時間ほどとのところにあるエンドジャックスタウンズ競馬場だ。

ここはクオーターホースの競馬場なのだが、クオーター場としてかなり東のほうにある。アメリカだとクオーター・ホースの競馬は西のほうで人気があり、東海岸ではない（東海岸ではハーネス人気が強い）。アメリカのちゃんとしたクオーター場というとインディアナ州とかオハイオ州あたりが限ではなかつたかと思うが、トロントはそれより東である。

トロントの近くというと、ナイアガラの滝の南側、あとちょっとで国境を越えてアメリカのニューヨーク州バッファローに到達するとうところに「フォートエリー競馬場」があるが、ここにもクオーター・ホースの競馬がある。前述のようにハーネスもあるしもちろんサラブレッドの競馬もあるので、カナダのオンタリオ州というのは3競技をしっかりと楽しめる侮れない土地である。

ジノエイジヤックスダウンズも力  
ジノ併設場だが、見た感じ競馬人  
気もそこそく保たれているようだ。  
そこは安心した。競馬エリアの食べ  
物というつまらないハンバーガー  
(しかも包まれているものをすぐ  
渡されるだけ)しかないが、カジノ  
客も競馬客も使えるレストランが  
便利な場所にあり、馬券と食事を  
両立する」こともできる。レストラン  
はスタンドの階でいうところの階(口一  
スと駐車場に高低差があるので建  
屋の入口も2階)なのだが、そこか  
ら外に出るとテナントになつていて、  
パレードリングを見下ろす」とも  
できる。